

1. 単元名 スリーヒントクイズを楽しもう

2. 単元の評価規準 (特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)より)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習の取り組む態度
伝え合う体験を通して、 ① 読むことができる文字を増やすことができる。 ② いろいろな言葉の種類に触れることができる。 ③ 言葉による表現を楽しむことができる。 (2段階、内容7の(イ)(ウ)及び内容1の(イ))	「聞くこと・話すこと」において、 ① 語句と事柄を結びつけたり、事柄を思い浮かべたりしている。(2段階、Aア) ② 伝えたいことを考え、相手に伝わるよう語句や発音・声の大きさ、視線など話し方に気をつけている。(3段階、Aオ)	相手の話に関心をもち、 ① 相手の方を向いて、話の大体を聞き取ろうとする姿がある。 ② 自分の思いや考えを相手に伝えたり、受け止めたりしようとする姿がある。

3. 教材のとらえ

本単元は、集団の中で伝えたり聞いたりする意欲と能力の向上を図ることを目的として設定した。

「スリーヒントクイズ」は、①問題にしたい言葉を考える、②言葉につながる3つのヒントを考える、③クイズを出す、答える、の3つの段階がある。①②の段階では、語彙力だけでなく、「くだもの、乗り物、動物」などの概念や、物をイメージし、「色、形、大きさ、音、用途」などで考え、「相手を意識したヒント」を作るなど、様々な角度からその物をとらえる力が必要になる。③の段階では、発音や声の大きさ・速度、立つ姿勢、視線など、相手への伝わりやすさを意識する必要もある。また、相手の話に興味をもち、答えたり、受け止めたりするための聞く姿勢も大切である。

本時の「スリーヒントクイズを楽しもう」では、児童中心で進行していく。少人数の安心できる環境で、自分が作った愛着のあるクイズを行うことは、興味や関心をもちやすい。また、日頃児童が感じていることとは違う語彙でヒントを出す友達がいることに気づいたり、聞いて考えたことを集団の中で伝えたりすることは、楽しみながら本児童の課題を解決へと近づけることができると考え、この単元を設定した。



4. 単元の指導計画(全6時間+語彙力の学習指導として適宜)

次	時間	学習活動	指導の手出	評価規準
一 (語彙力の学習として適宜行う)	1	○スリーヒントクイズを体験する。 ・教師が「スリーヒントクイズ」をだし、具体的なイメージと関心をもたせる。 ・三つのヒントを聞いて答えるというクイズの仕組みを知る。	○ヒントの作り方やクイズのルールについて知らせる。 ○児童に合わせて簡単な問題から始める。	【主①】相手の方を向いて、話の大体を聞き取ろうとする姿がある。 【知②】いろいろな言葉の種類に触れることができる。
二	2 3 4	○クラスの中で、クイズを出し合う。 ・「話し方」「聞き方」などを確認してからクイズをだす。 ・友達や自分のクイズの「良かったところ」や「直した方がよいところ」を話す。 ○もっとスリーヒントクイズを作ろう。 ・友達のヒントの作り方の良かったところを参考にしよう一度クイズを作る。	○言葉集めを行い、語彙を増やす。 ○ヒントの作り方を確認する。 ○イメージが思い浮かべられない時には、写真や実物、タブレットなどを使う。 ○ヒントが作れないときには「色は」、「形は」、などのキーワードを使って支援する。 ○友達のヒントの良かったところを話し合わせる。	【知③】言葉による表現を楽しむことができる。 【知②】いろいろな言葉の種類に触れることができる。 【知①】読むことができる文字を増やすことができる。 【主①】相手の方を向いて、話の大体を聞き取ろうとする姿がある。

三	5 (本時)	○7組と一緒にクイズを出し合う。(本時) ・クイズを作る。 ・クイズを出し合う。 ○7組と一緒にクイズの振り返りをする。	○朝の会や交流級、さくら全体の授業の中で、話し方・聴き方の指導を重ねていく。 ○たくさんの人の前でクイズを出すという経験を味わわせ、自信につながるようにしていきたい。 ○振り返りを行い、頑張ったことやできるようになったことを感じたり、周りから褒められたりすることで、小さな成長や達成感を味わえるようにする。	【主②】自分の思いや考えを相手に伝えたり、受け止めたりしようとする姿がある。 【思①】語句と事柄を結びつけたり事柄を思い浮かべたりすることができる。 【知③】言葉による表現を楽しむことができる。 【主①】相手の方を向いて、話の大体を聞き取ろうとする姿がある。 【思②】伝えたいことを考え、相手に伝わるよう語句や発音・声の大きさに気を付けることができる。
四	6	○さくら全体朝の会でクイズを出す。	○声の大きさの確認をしておく。	【主②】自分の思いや考えを相手に伝えたり、受け止めたりしようとする姿がある。

5. 本時の指導案

本時の目標

- ・特徴を考えて、相手に伝わるクイズのヒントを考えることができる。
- ・声の大きさや速度、視線などを意識してクイズを出すことができる。
- ・聞き方に注意して聞くことができる。

個別の支援

- ・ヒントが思い浮かばない時にはキーワードを伝えたりカードを使ったりする。
- ・声の大きさを声の大きさメータの数字で確認しておく。
- ・クイズを出す前に練習をする。
- ・単元を進める中で、声で伝えることがどうしても難しい場合は、補助的に書いて伝えたりクロムブックなどを使って伝えたりできるようにする。

学習活動	教師の支援・評価
1. めあての確認 🌸 ヒント作り名人 🌸 発表名人 を目指して スリーヒントクイズを出しあおう。 2. 本時の活動の確認をする。 3. クイズを作る。 ○今日は「好きな食べ物」でクイズを作ろう。 ・ワークシートにクイズを書く。 ・〇〇のクイズを作りたい。 ・ヒントは～にしよう。 ・どの順番でヒントを出そうかな。 ・どんなヒントが良いか思いつかない。 4. クイズを出す順番を決める。 5. クイズを出し合う。 ・落ち着いてクイズを聞く。 ・順番になったら話し方に気をつけてクイズをだす。 5 感想を言い合う。 ・〇〇さんの最後のヒントが良かったです。 ・〇〇さんの話し方が良かったです。	・見通しが持てるように掲示する。 1. はじめにクイズを作ります。 2. クイズを出し合います。 3. 感想を話し合います。 （主）進んで自分が伝えたい言葉を考え、相手に伝えるヒントを考えるという見通しを持って学習しようとしている。 ・「ヒントは特徴を考えて作る。」 ・「色、形、大きさ、音、用途」などのキーワードを知らせる。 ・クロムブックを用意する。 ・思いつかないときには絵を描いて確認してよいことを知らせる。 ・早くできてしまった時には出すクイズを練習する。 ・希望が重なったときにはどうするか考えさせる。 ・クイズは3つのヒントを聞いてからでないと答えられないことや声の大きさ、話し方など確認しておく。 ・友達のヒントが分からなかった時は、手話や筆談で支援する。 （思）「聞くこと・話すこと」において、伝えたいことを考え、相手に伝わるよう語句や話し方に気をつけている。 ・クイズを出してどうだったかや友達の良いところを話し合って次時につなげる。 ・良かったところを中心に話し合い成功体験や自信をもたせる。